

3 ドコモビジネス拡大

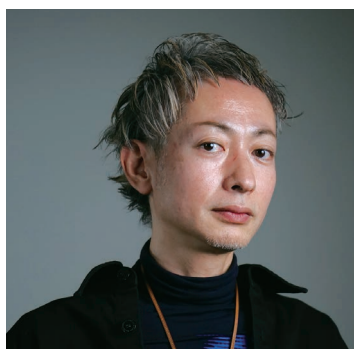
サービス創出にソフトウェア技術力で貢献

ドコモグループにおいて、ソフトウェア開発力をはじめとした技術の力やITガバナンスを通じてサービス創出を強化していくことがNTTコムウェアのミッションの1つである。今まで培ってきた、NTTグループのミッションクリティカルな基幹系システムの開発や運用といった実績を活かし、新しい仕組みを積極的に導入しながら新たな価値を提供していく。

「ソフトウェア開発 + α」によるサービス創出力強化

「サービス創出力強化」。このようなタイトルの書籍や記事は山ほどあり、まるでこれがビジネスを成功へ導く方法として確立されているかのようである。しかし昨今、企業をとりまく、社会・マーケット・技術等さまざまな要素はあつという間に変容し、組み合わせも無限に生まれるため、「サービス創出」とは常に“昨日の常識”を疑って、日々アップデートしていくことが必要な、正解が変容する領域である。

NTTコムウェアは、ソフトウェア開発をメインの強みとして、より



NTTコムウェア株式会社
NTT IT 戦略事業本部
DigitalDesign & DevelopmentCenter
部門長 下川 豊稔氏



NTTコムウェア株式会社
NTT IT 戦略事業本部
IT 戦略部 ドコモ IT 戦略部門
部門長 檜垣 宗平氏

魅力的なサービス創出に寄与するため、さまざまな技術、開発手法のアップデートを追求している。アジリティを高めるためのアジャイルスクラム開発や、大規模アジャイルのフ

レームワークである Scaled Agile Framework® (SAFe®) 適用検討、ブロックチェーン等新規技術検証等がそれにあたる。

一方、ソフトウェア開発だけで競争力の高いサービスは創出できない。社会の情勢を予見する力、その中で唯一無二な価値は何かを探索する力、それを顧客・ユーザ体験 (CX/UX) に落とし込む力、ユーザフィードバックを蓄積し活用していく力、それを適宜市場に問う行動力、開発以外にもさまざまな要素、プロセスと知見 (=α) が必要である。

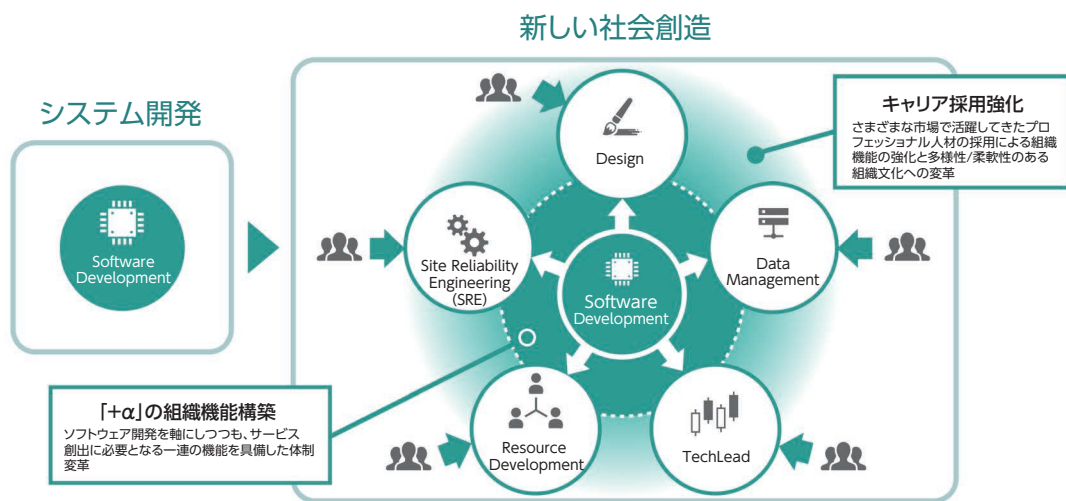


図1 サービス創出力強化に向けた組織体制変革

ダイナミックな組織変革

そのため、当部では開発を中心としていた体制の大幅な刷新を実施。DigitalDesign & DevelopmentCenter（以下、D3C）として、市場探索チーム、データマネジメントチーム、サービスの迅速なリリースをしていく Site Reliability Engineering (SRE) チーム、最先端テクノロジー検証チーム、またそれらの人材を恒常的に育成するチーム等、サービス創出力強化プロセス全般に対応できる組織運営へとダイナミックな変革を行っている(図1)。

また、さまざまな分野で活躍してきた経験者を積極的に採用し、スキル、文化の多様性、柔軟性の向上にも取り組んでいる。

ゴールは常に新しい社会創造

その新体制をもとに、ドコモグループのキャリア事業・法人事業・スマートライフ事業、それぞれの事業領域への貢献を開始している。

事業貢献のゴールは、ドコモグループが新しい社会を創造していく

ことである。D3Cのメンバー構成は20代の若手社員が3割、キャリア採用の社員が3割、NTTグループの事業経験者が4割。新たな視点や多様な文化をもったチームとして、ゴールの実現に向けさまざまな手段を模索・開拓・提供し続けていく。

ドコモグループの CIO 連携による検討

ドコモグループの「総合 ICT 企業」化に向けては、これまでの各社自立的な事業運営から、NTT ドコモ、NTT コミュニケーションズ、NTT コムウェア（以下、DCC）3社連携による競争力強化・全体最適化による事業成長、またそれを支える IT ガバナンスの確立が必須である。

また、各社の機能統合によるシナジーの一つである、サービス創出力・開発力強化においては、SoRの効率化を図り、SoE（成長領域）への確実なシフトをめざしていく。

これらの実現に向けて、DCC3社 CIO および IT 部門が連携し、IT ガバナンスによるシナジー最大化や IT 全体最適化に向けた戦略策定および施策の実行を目的とする定期的な議論、検討の場に当社も参画し、

ともに検討を進めている。その中には、DCC 各社との課題や取組み状況の共有、グループ方針決定等を行っている。

検討内容としては、「IT インフラ効率化」「データの活用」「人材スキル・タレントマネジメント」「プロセスの統制」等があり、グループのガバナンスのために現状やルールを洗い出しまとめるところからスタートし、今後に向け共通の目標値を定める等連携して取り組みを進めている。

例えば、「IT インフラ効率化」においては、IT インフラのグランドデザインに基づいて、グループ3社基盤環境の統合・高度化を推進していく。特に昨年の事業統合後における社員の OA 環境について、統合シナジーの発揮や社員満足度向上の観点からも対応が急務であった。そのため当社として「IT 環境改善」を最優先テーマとして、OA 環境の改善を進めている。

また、「リソース/タレントマネジメント」では、ドコモグループのサービス開発力強化に向けて、事業戦略と連動した3社横断でのリソースマネジメントや、サービス開発人材の育成強化に取り組んでいる。将来的には、人材スキル・ロールの共通化や資格制度の統一化等検討を進め、DCC3社共通で市場競争力の高い人材の育成・獲得をめざす。

新ドコモグループ中期戦略で掲げる中期戦略・経営目標達成に向けて、さらなる成長領域へのシフトと、効率性・生産性向上が求められる。DCC3社の IT ガバナンス確立をめざして、戦略的投資ポートフォリオの形成や事業横断での意思決定への寄与により、事業変革へ貢献する役割を果たしていく。

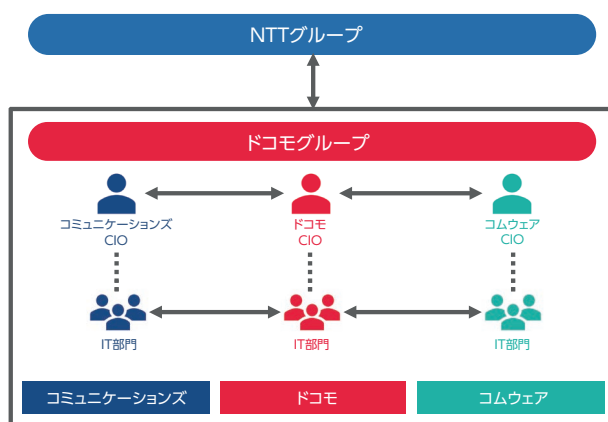


図2 DCC3社 CIO および IT 部門が連携し、3社連携のガバナンスによるシナジー最大化や IT 全体最適化に向けた戦略策定および施策実行